

第3部「日本の誇り 一皇室125代の謎一」

前回、日本についての話をした。初めに復習をする。

日本ってどういう国か。

国家は世界に200ある。

これを大きく分けると君主国と共和国（民国）の2つに分かれる。

共和国（民国）には、例えば中華人民共和国や大韓民国がある。

分ける基準は、元首の選び方によって違う。

君主国は、元首が世襲制であり、代を重ねる。

共和国は、元首を選挙で選ぶ。

日本は、念のために、A：君主国ですか？ B：共和国ですか？

（ノートに書かせ、A、Bそれぞれ挙手で確認）

AとBに分かれる。これが日本の現実。

総理大臣は選挙で選んでいる。これを元首と思っている人が多い。

総理大臣には、天皇が任命しないと成れない。元首は天皇。

日本は君主国、君主国はざっと50ある。共和国は150。50対150。

A：君主国と、B：共和国は歴史的に見てどっちが先か？

甲：A→B 君主国が先と思う人は「甲」

乙：B→B 共和国が先と思う人は「乙」

甲、乙分かれる。

昔は全部君主国です。王様がいる。

選挙はごく最近。日本でも普通選挙は昭和20年から。それまで女性の選挙権はなかった。男でも金持ちでないと選挙できなかった。

君主国は、継続することがいい。10代も20代も続くのがいい。

デンマークは 54代（1代は20～30年だから、約1500年）

イギリスは 40代

スウェーデンは23代

モロッコも 23代

日本は 125代、これは世界の奇跡と言われる。

フランスも、韓国も、ロシアも、元首は民衆によって滅ぼされる。倒されて共和国になっていく。

日本では、何で天皇が国民の支持を受け続けるのか。

こういう言葉がある。→「出自」

出所、出身という意味。

アサヒビールのスーパードライを開発した 中條高德 氏、孫娘が留学をした。

どこの国の留学生も自分の国を自慢する話をする。

どんなに祖国・母国である日本を自慢しようとしても話すことがない。

→おじいちゃん、日本のことを教えて。

孫娘との往復書簡（致知出版）

『おじいちゃん日本のこと教えて』

『おじいちゃん戦争のこと教えて』

出自に自身のある時は、人間元気が出る。

戦後、日本という国に生まれて日本人であることを世界に胸を張って言えないようになっている。

出自に誇りが持てることが大切。誇りと自信をもてる教育がほとんどない。

日本は、天皇がなぜ125代も続いているか？

1代目は誰か知ってる？

神武天皇。会った人の記録がないから架空の人物だという人もいる。

しかし、いなかった証拠を出してみろと言われても出せない。

架空の人物と主張するのは、出自をおとしめること。

記録が残せない時代のことも、いたと言われていたのならそう思うのが後に続く人の素直な生き方。

日本は、天皇がなぜ125代も続いているか？

簡単に言うと倒されなかったから。

なぜ、倒されなかったかというと、愛されたから。

民衆をいじめなかった。いじめると民衆に倒される。

ベルサイユ宮殿に行ったことがある。豪華で目がつぶれるほどまぶしい。これじゃあ殺されるなと思った。

どれだけ民衆が働いても、搾取されたにちがいない。

日本のお城はというと、熊本城にしても大阪城にしても、ベルサイユ宮殿に比べれば、箱庭みたいなものだ。

致知カレンダーというのに天皇の写真が載っている。

4月の写真は、天皇が稲の苗を植えている写真。

天皇陛下が田植えをしている、その後ろに、鉄パイプで組んだ藤棚が写っている。この鉄パイプが真っ赤にざびている。日本の天皇は、まだあんな鉄パイプを使っている。贅沢なんかしたことがない。

日本の元首は常に国民の幸せだけを考えていた。

外国の元首は自分のことだけしか考えていない。

世界の奇跡と言われる日本の皇室はどういう存在であるか。

日本の天皇陛下は国民に対して、ああしなさい、こうしなさいということは、ほとんどない。

和歌…皇室が非常に大切にしている文明。

明治天皇は、約一万首作った。和歌を通して気持ちを伝えた。

天皇の和歌だけ、御製という。それ以外の皇室の和歌は御歌。

1945年、日本は戦争に敗けて無条件降伏をした。

「天皇を殺せ」は占領軍としては当然のこと。

まず、憲法を作り直せ。日本が明治憲法を手直ししたが全くダメ。←例えばこういうふうにするんだと示された憲法が今の憲法。

その憲法の第一章に、「天皇は国民統合の象徴」と書かれている。

憲法の一番大事な第一章に、世界の敵である天皇が「象徴」と書かれている。

これは、マッカーサー元帥が「天皇は絶対に殺しちゃいけない人」と言ったから。

以下、次の資料に関する説明。

終戦直後の心境～マッカーサーとの会談（1945＝昭和 20.9/27）

天皇の口から出たのは、次のような言葉だった。「私は、国民が戦争遂行にあたって政治、軍事両面で行ったすべての決定と行動に対する全責任を負う者と

して、私自身をあなたの代表する諸国の裁決にゆだねるためおたずねした。」私は大きい感動にゆずぶられた。死を伴うほどの責任、それも私の知り尽くして諸事実に照らして、明らかに天皇に帰すべきではない責任を引き受けようとする、この勇氣に満ちた態度は、私の骨の髄までもゆり動かした。私はその瞬間、私の前にいる天皇が、個人の資格においても日本の最上の紳士であることを感じ取ったのである。(『マッカーサー回想記』)

「今回の戦争の責任はまったく自分にあるのであるから、自分に対してどのような処置を取られても異存はない。次に、戦争の結果現在国民は飢餓に瀕している。このままでは罪のない国民に多数の餓死者が出る恐れがあるから、米国に是非食糧援助をお願いしたい。ここに皇室財産の有価証券類をまとめて持参したので、その費用の一部に充てていただければ仕合せである」と陛下が仰せられて、大きな風呂敷包みを机の上に差し出された。それまで姿勢を変えなかった元帥が、やおら立ち上がって陛下の前に進み、抱きつかんばかりにして御手を握り、「私は初めて神のごとき帝王を見た」と述べて、陛下のお帰りの時は、元帥自ら出口までお見送りの礼をとったのである。(「奥村元外務次官談話記録」より)

昭和50年の訪米

「私は多年、貴国訪問を念願にしておりましたが、もしそのことがかなえられた時には、次のことをぜひ貴国民にお伝えしたいと思っておりましたと申しますのは、私が深く悲しみとする、あの不幸な戦争の直後、貴国が、我が国の再建のために、温かい好意と援助の手を差し伸べられたことに対し、貴国民に直接感謝の言葉を申し述べることでありました。当時を知らない新しい世代が、今日、日米それぞれの社会において過半数を占めようとしております。しかし、たとえ今後、時代は移り変わろうとも、この機構民の寛容と善意とは、日本国民の間に、永く語り継がれていくものと信じます。」

(ホワイトハウスの公式歓迎晩餐会における昭和天皇のお言葉)

昭和52年8月23日の記者会見

一終戦直後の混乱期に、たとえばマッカーサー元帥にお会いになりましたけれども、当時の印象に残られたようなお話をしていただけませんか。

昭和天皇「マッカーサー司令官の話というものは、マッカーサー司令官とはつきり、これはどこにもいわないと約束を交わしたことですから、男子の一言のごときことは守らなければならないと思いますから、今そういうことを私が話したということになると、その約束を破ったということになると思います。それでは、世界の信用を失うことになりますから言えません。」